

石井っ子だより

平成27年1月8日発行

1月号

発行責任者 紺野 宗作

新年あけましておめでとうございます！

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

3学期は、各学年とも締めくくりの段階に入ります。子どもたちは、この節目のなかで「今年こそ」と、新しい年の夢を描いたり目標を立てたりしていると思います。目的意識を高く持った子どもほど確かな成長をしていきます。どうか、各家庭でも家族団らんの中で夢や希望についての会話を心がけてほしいと思います。

さて、お正月におとそをいただきながら、「未来を担うこれからの子どもたちには何が必要か？」ということを考えていました。そこで浮かんできたことが6年生の教室にも大きい文字のポスターが貼られている「自立」という言葉です。時代が変わっていても、どんな社会になってもそこに出て行けるような人間を目指すこと、それが「自立」です。いくら学力があっても「自立」しないで社会にでてしまうと一人で物事を決められない、周りとの関係も築けないということになってしまいます。それでは、社会で生きていけません。「自立」とは具体的には、自分のことは自分で考え自分で行動することができる力です。自分でできるようになるまでにはどんな子どもでも時間がかかります。これからも、学校と家庭が手を取り合って、根気強く子どもを温かく見守り、子どもを自立に向かわせていきましょう。

学校評価ご協力ありがとうございました！…今後の教育活動に生かしていきます。

遅くなりましたが、学校評価アンケートの結果を報告します。詳細については、本校の課題と思われたものを整理しましたので裏面のアンケート集計結果をご覧ください。

本校の教育目標に「主体的に実践できる児童の育成」を掲げていますが、「進んで学習する態度」の評点がとても低いことが気になります。自主性を伸ばし何事にも前向きに取り組む石井っ子を育てたいと考えています。その阻害要因の1つにゲームや携帯スマホ等があるのではないかと考えています。子ども達の実態調査をすると各家庭でのゲームや携帯スマホ等の対策が十分ではないことも伺えます。

学校では、メディア対策として1月19日の授業参観時に5、6年生の児童対象に県教育センターから講師による「携帯スマホ等の危険性について」という授業を実施する予定です。授業終了後、保護者の方にも簡単な講話をさせていただく予定なのでぜひ参加ください。

また、1月28日には、4年生の児童を対象に「ゲームが脳に及ぼす影響について」と題し、佐久間内科小児科医院の佐久間秀人先生に講義をしていただく予定です。授業参観日ではありませんが、ぜひ保護者の方も参加ください。

ゲームにのめり込み、なかなかやめられなくなるゲーム脳の子も達。LINE等で犯罪に巻き込まれる子ども達。これからの子ども達を健全に育成していくためには、メディアの問題を抜きには考えられません。学校と家庭が手を携えて、メディア対策をしていきましょう。

読書を好きにする方法

今回の学校評価アンケートでA評価が、最も低かったのは「読書」についてです。子どもには、「本を好きになってほしい」とどんな親でも願うことでしょう。しかし、石井の子ども達は、学校評価を見ると、本好きとは言えません。

それでは、どのような方法で読書に親しむ子どもにしていけばよいのでしょうか？ここでは、全国でブームとなっている「家読（うちどく）」を紹介します。家読とは、家庭での読書を略した呼び名で、読書を通して、家族のコミュニケーションを図ろうという全国展開されている運動です。家読のやり方に決まりはありません。読んだ本について話をするということを基本としています。絵本の読み聞かせをしたり、同じ本を読んで会話を楽しんだり、読んだ本をきっかけに、家族のコミュニケーションが増え、そして絆が深まり、家庭が子どもを優しく包む空間となっていけば、子どもは自然と読書好きになっていくという運動です。

以下、読書を好きにする方法です。参考にしてください。

1 読み聞かせをする。

小さくて字が読めなかった頃、お父さんやお母さんにお話を聞かせてもらった記憶はありますか？物語を聞いて、場面を想像したり、次はどうなるのかとドキドキしたり。知っている物語でも、何度も聞いて結末に安心したりしませんでしたか？読み聞かせというのはいつの時代でも大切なことなのです。毎晩お父さんやお母さんから聞く話で、子どもは頭と心を成長させていくのです。

2 お父さん、お母さんが読書をする姿を子どもに見せる。

子どもは親の姿を見ています。お父さん、お母さんが本を楽しそうに読んでいると、子どももまねをしてみたいくなるものです。文化的な側面を持った生活は、情操を育て、向上心を育てます。「知識を得ようとする行為」を見ることが、人間の生活の豊かさ、美しさを伝え、心を育てるのです。

3 子どもを図書館や本屋に連れていく。

お父さんや、お母さんが時間を作って、図書館や本屋に行くことが効果的です。「こんなにたくさん本があるんだよ、楽しい話はいっぱいあるよ、きみの知っていることなんて、世の中のほんのこれっぽっちなんだよ。」と体験させることが大切です。自分の知識や常識、世界の狭さを知り、より広い世界を見いだそうとする心を育てるのです。大量の本を見、自由にさわることで新しい世界が目の前に開ける喜びを味わう、それをお父さん、お母さんがしてあげることで、子どもは親の偉大さ、文化のすばらしさ、知識欲というものを知ることになります。スポーツや文化など、より優れたものや事柄に触れさせ、よりよい生き方を教えていくこと、これは子育ての中でとても大切なことです。

4 おもしろい本を教える。

（そのためには、情報を入手し、自分で必ず目を通しましょう）

自分が子どもの頃に読んだ本を紹介することで、子どもはお父さん、お母さんの子どもの頃のことを想像し、一体感や共感を覚えます。同時に、一つの物語を通して親子の会話を成立させ、新しい作品へと継続する興味をもたせます。これは、親の知識を伝えてもらう喜びを味わい、信頼感や文化への愛着を育てることにもなります。めんどくさくても、お父さん、お母さんは楽しい本を探しましょう。そして、必ず読んで、読んだ後で子どもと語り合えるようにしておきましょう。自分の子どもに合う本は、親がいちばんよく分かるのです。自分の子どもがどんな本を読んでいるか、知っていますか？